



やる気スイッチを探して

校長 関原 秀明

あるコンビニエンスストアに入ったときのことで、3、4歳の女の子がアイスクリームコーナーの前で商品を選んでいました。側で見えていたお母さんと思われる方が、決めかねている我が子をせかせています。間もなくお母さんは数ある商品の中から一つ取り出し、「これでいいね。これにするよ」と。納得がいかない子供は半べそをかきながら、レジに手を引かれていきました。

何か他のやり方はなかったか、私自身の子育てはどうだったかを振り返ると、少し胸が苦しくなりました。

子供のやる気スイッチはどこにあり、どうすればONにすることができるのかと考えることがあります。いわゆる「動機付け」です。この分野の研究では次のようなことが明らかにされています。(Deri&Ryan「自己決定理論」)

「他者にやらされているのではなく、自分の意志でやっている」という自律の意識が、行動する意欲を高めるといえるものです。そのための有効な手段として、子供自身に「選択」や「決定」をさせる機会をできるだけ多く与えるということが挙げられています。

本校では、授業において自分の意見をもち、それを表現することを大切にしています。考えさせるといっても、漠然と「～についてどう思う？」と聞いてもすぐには答えが返ってきません。考えるきっかけとして、「～とくらべて気付くことは？」「～について、AとBではどちらがよいと思う？」など、考える視点を示しています。また、できるだけ自分一人で考える時間をつくったり、自分の意見をノートに書いて発表する機会をつくったりしています。考える過程において、多様な意見の中から納得できるものを「選択」したり、それを組み立て直し、自分の考えを「決定」したりします。



自分の考えをまとめています

コンビニエンスストアでの親子のやりとりについて、皆さんはどのように考えられますか。例えば、「どんな味のものがほしい？」と尋ねたり、「これは～の味だけど硬いよ。これは柔らかいクリーム味。これは中にイチゴのクリームが入っているよ。どれにする？」と提案してみるのはいかがでしょうか。3、4歳の子供にとって、20種類ほどある中から1つを選ぶのは難しく、時間もかかります。3つぐらいに絞ってヒントを与えた上で本人に選ばせるのがよいのではないかと思うからです。様々な対応の仕方があると思いますが、その年齢なりの「選択」や「決定」を大切にしたいものです。

《お知らせです》

○4年生が交通マナースリーアップ運動に参加します。

国吉りんごを配りながら、通行する車の運転手さんにマナーアップを呼びかけます。題して「国吉スリーアップ運動」です。9月21日(木) 11:00より、答野島交差点付近(ローソン前)で実施します。通行された際には声をかけてやってください。

○5年生の活動がテレビで放映されます。

7月に収録した5年生の活動ぶりがいよいよ放映されます。是非ご覧ください。

放映日時は9月25日(月) 16時23分ごろで、チャンネルはKNBです。

※裏面に1学期末に行った学校評価の結果と考察を載せました。ご一読ください。